

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 四国支社

活動地域：愛媛県鬼北町

活動におけるテーマ

『コワーキングスペースを起点とした
関係人口の拡大』

活動団体および活動地域の紹介

団体名	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 四国支社
所在地	香川県高松市錦町2-4-8

団体の目的

国内電気通信事業における県間通話サービス、国際通信事業、ソリューション事業、及びそれに関する事業等

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

ICT技術、各種データや再生可能エネルギーなどの脱炭素技術を活用することで、環境（自然豊かな）・社会（心豊かな）・経済（暮らし豊かな）のバランスがとれたスマート鬼北町

町民が健康でコミュニティを形成し、農林水産業分野や防災分野等がスマート化により生産性が向上し、資金の域外流出を抑えることで、域内投資がなされ、デジタル分野の新産業が創出されることで、関係人口や移住定住も促進されることを目指す。

地域の現状・課題

- ・ 地域づくり人材の高齢化などが顕著である。
- ・ どの産業でも労働生産性は低い水準である。
- ・ エネルギー代金が19億円域外に流出している。
- ・ CO2排出量が最も多い部門は家庭（21千tCO2/年）である。

地域が持つ資源

- ・ 町の面積の約8割を占める森林資源
- ・ 豊かな自然環境や伝統文化、歴史
- ・ 光ケーブル等の通信インフラ
- ・ 金融機関、道の駅、農業公社、その他、民間企業やNPO等
- ・ 地域おこし協力隊や県立北宇和高校等の若い人材



鬼のモニュメント「鬼王丸」



愛ある鬼嫁コンテスト



コワーキングスペース「Warmth」

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



鬼北町地域循環共生圏



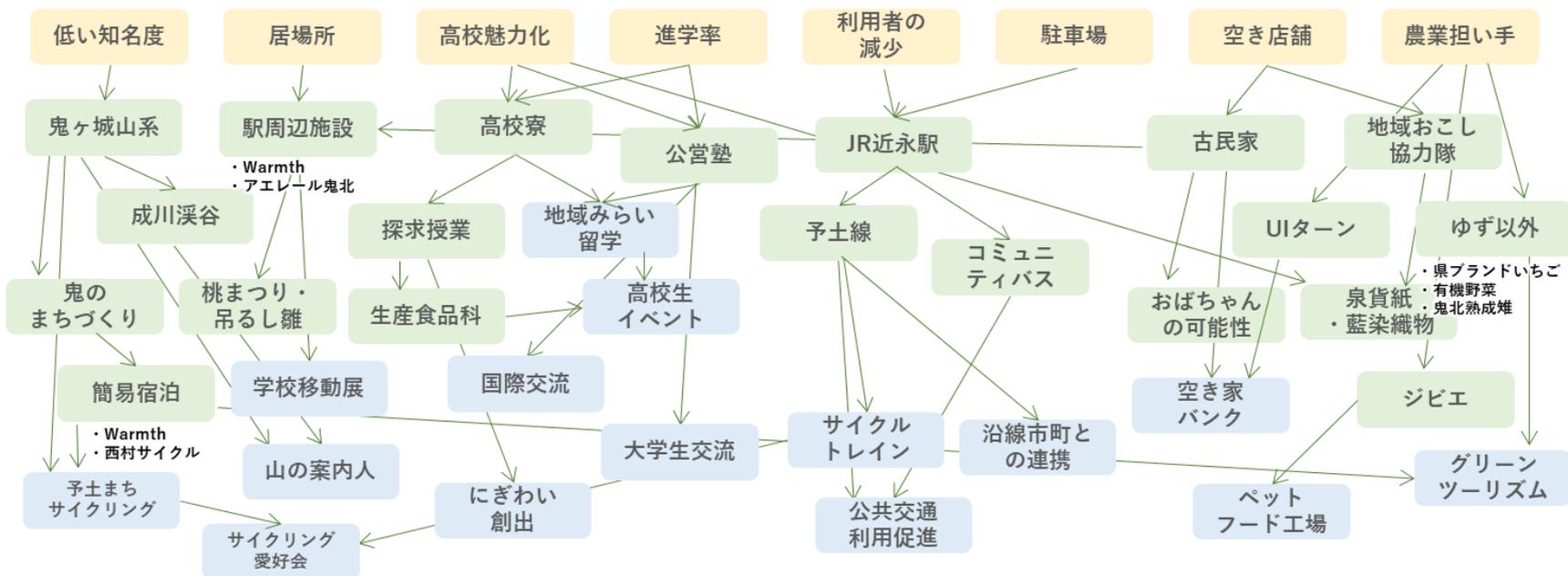
- 課題
- 地域資源
- 取組み

交流機会の減少

高校の統廃合

公共交通の存続危機

地場産業の停滞



四万十川流域で連携し、
時代にあった地域をつくる
《つながる安心、連携のまち》

家族全員・
地域全体で子育て
《親と子がともに育つまち》

「帰りたくなる」
心のふるさと
《訪れたいまち・住みたいまち》

豊かな地域資源を
活かした産業振興
《女性・若者・高齢者がいきいき働けるまち》

地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体			全国キックオフ ミーティング					四国ブロック 中間共有会				全国 成果共有会
実施内容			ステークホルダーヒアリング・勉強会							地域マンダラ作成・ 更新		
			ステークホルダー ミーティング				調査報告 意見交換	人流調査	先進地視察	ステークホルダー ミーティング		
コアメンバーミーティング			▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
ステークホルダーヒアリング			▲	・青年団 ・公民館 ・公営塾講師 ・役場職員					▲	▲	▲	▲
									▲ ・高校魅力化 支援事業者	▲ ・事業者(サ ムコッペ)	▲ ・地域おこし協 力隊(泉貨紙)	▲ ・道の駅(森の 三角ぼうし)

1. 地元で活躍する様々なプレイヤーとの協働に向けた相互理解の場づくり



ステークホルダーミーティング(6/17)



ステークホルダーミーティング(2/9)

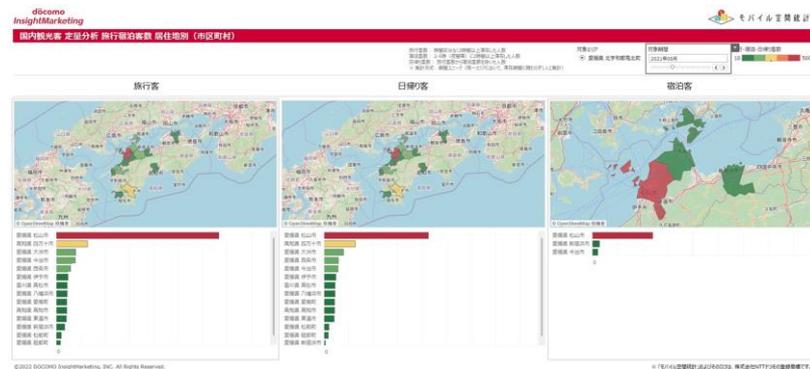
まちづくりに対する様々な想いや活動を行っているが、プレイヤー同士の交流や連携の場づくりや機会不足

地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

2. 先進地の成功要因や人流分析などエビデンスに基づいた施策立案(EBPM)に向けた基礎調査



①先進地における成功要因や取組み事例の紹介及び活用に向けた助言四国経済連合会、いよぎん地域経済研究センター(10/6)



②鬼北町における人流分析結果(11/10)

サテライトオフィス・ワーケーション誘致が、大都市の企業や社員を地域に呼び込む「関係人口の拡大」の切り札

全体の約8割が日帰り客で、来訪者の多くが県内(松山市)

3. 先進地域の視察などによる場を活用できる仕組みづくりの検討



地域交流拠点施設「真鍋屋」



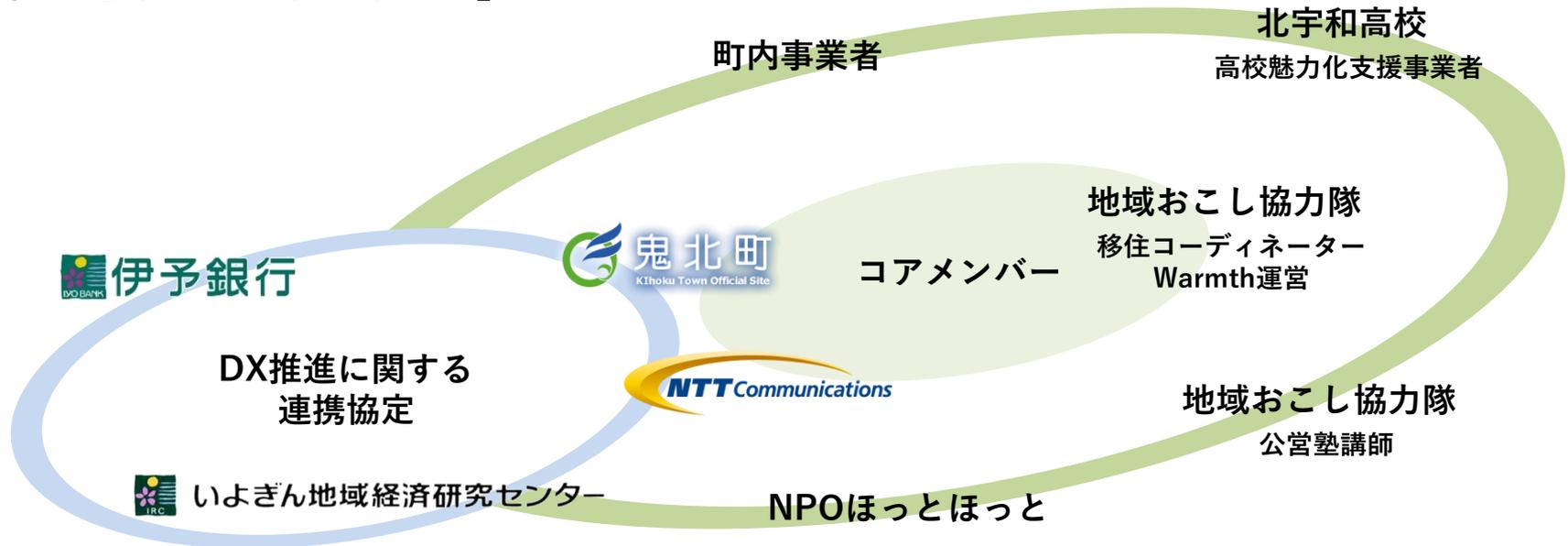
ウマスクールコテージ

③先進地域への視察_三好みらい創造推進協議会(12/9)

実働・リアル対応できる中間団体(協議会など)によるコーディネーター機能が不可欠

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】



【地域プラットフォームの変化】

- ・当初想定していたステークホルダーの巻き込みが不十分であり、コアメンバー以外の数者にとどまった。
- ・ステークホルダーミーティングにおいて、まちづくりに興味のある町内の事業者に参画いただき、町の課題や地域ならではの価値について積極的な意見交換ができるなど、地域住民が主体の課題解決に向けた活動の機運が高まってきていると感じる。
- ・中間共有会や先進地域への視察などを通じて、中間団体による実働コーディネーターの役割の重要性を改めて認識したことから、次年度に向け協議会の立ち上げを検討している。

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

取組み全体を通しての成果

- ・ 四国内のシンクタンクによるコワーキングスペースなどの調査結果、人流データや関係人口拡大のターゲットとなる地域を対象としたWebアンケートなど、地域の現状を俯瞰的に捉えるための基礎データの収集や整備を行えた。
- ・ 中間共有会や先進地域の視察など、既に取り組んでいる団体との意見交換を通じて、推進体制の強化の必要性を改めて認識した。

ボトルネックや新たに見えてきた課題

- ・ 地域のステークホルダーと普段の関りがあまりないことから、主に鬼北町経由で紹介してもらったが、一時的な関係性に留まるなど、本事業への巻き込みが不十分であったことから、ステークホルダーヒアリングなど個別ヒアリングを強化
- ・ 鬼北町と本事業以外の他の取組みも並行して進めており、そうした取組みと本事業を連携することはできたが、上記の地元住民などのステークホルダーとの関係性の拡大が不足していたため、協議会などの体制強化を検討

活動における今後の展望

今後のチャレンジ

・事務局体制の見直し

住民が主体となった中間団体による活動の推進を行うため、町内の意欲ある事業者やNPO、地域おこし協力隊などからなる協議会の設立を検討している。

今後は、同協議会が中心となり本プラットフォーム事業を推進していく予定である。

・ステークホルダーの巻き込み

地域資源でもある「愛媛県立北宇和高校」をはじめ、道の駅「広見森の三角ぼうし」「日吉夢産地」や「農業公社」、また地元で活躍している若手の事業者など、まちづくりに興味のある様々なステークホルダーに参画いただけるよう働きかけていきたい。

別事業でおこなった鬼北町内で何かしたい人を応援するセミナー「にぎわい塾」には、町内外から起業を目指している若手事業者が多く集まるなど地域のポテンシャルを感じたことから、1月以降はそうした事業者への個別ヒアリングを行っており、今後もそうした事業者との関りを深めてきたい。

・地域版マンダラのブラッシュアップ

今年度は、限られたステークホルダーで作成した地域版マンダラであるため、住民の想いを反映したマンダラとなるよう、さらに進化させていきたい。